

## 思考力育成のデザイン

### ～「思考力テスト」と「思考力テスト」のカップリング

#### §1 「思考力テスト」と「思考力セミナー」のカップリングの着眼

生徒の力をどう測り、どう見るか。これは長い間ずっと悩んできたことだった。数学科の教員として何年も入試問題作成に携わり、入学してきた生徒たちの成長を見続けてきたが、卒業時の彼らの成長ぶりが入試結果との相関関係があまりにもない事実があるからだ。入試時の彼らの点数では、彼らの潜在能力を測れない。もしかしたら、点数にまだ反映されていないだけで、大きな潜在能力を秘めた生徒たちを見逃しているのではないか。そんな思いがずっとあった。

そのような中、別の観点から子どもたちを見ることができなにか、と始まったのが思考力テストの試みだ。子どもたちの思考の過程を見える化する。その中で、まだまだ発達段階途中の子どもたちをより多くの視点で見ることができるのではないか。インプットされた情報が多いか少ないか以外の力を見ることのできるのではないか。

そんな願いが強くあった。しかし、突然「思考力テスト」を実施すると発表しても、従来型の受験方法しか知らない子どもたちにとっては逆に受験しにくい。そこで、学校説明会が行われるごとに、思考力セミナーを実施することになった。

#### §2 「思考力セミナー」としての学びのプログラム

思考力セミナーの大きな流れは次のようになる。まず三、四人のグループに分かれる。その後、アイスブレイク（自己紹介など）、題材の提示、発見ならびに思考タイム、シェア体験、新しい問いの探求、そして百字の要約である。実際のテストも、シェア体験が外された以外は、すべて同じ

流れである。

題材は基本的に何でも構わないし、使うツールも様々だ。図形や写真、レゴや文章などを利用しながら、子どもたちに思考のプロセスを体感してもらう。

すでに知っている、知らないの二者択一ではなく、ましてや点数をつけて序列化をするわけでもない。最初こそ戸惑いを見せる子どもたちも、だんだんと自分の意見を用紙に書き込んだり、お互いに意見を出し合ったりしはじめる。

### §3 思考力セミナーはなぜ子どもたちの発想を引き出せるのか。

思考力セミナーを続けていて驚かされるのは、子どもたちの発想の豊かさだ。教員側としては、それなりに彼らの発想の予測を立てておいたりする訳だが、それらがいろいろな形で裏切られる。こちらが、「なるほどね」と納得することも少なくない。

なかなかきっかけがつかめない子どもたちには、教員やチューターとしてお願いしている大学生たちが声をかけて、きっかけづくりのサポートもする。ヒントを与えたり、お互いに意見を言いやすい雰囲気を作ったり、教えるのではなくあくまでもサポート役に徹することが大事だ。

グループ内の仲間と意見をシェアすることで、新たな気付きも起こる。自分とは異なる発想や考えを聞くことで触発され、新たな気付きや発見も生まれてくる。それがまた、彼らにとって楽しいのだろう。レゴを利用したセミナーのように、動きが加わるとさらに議論は活発になるし、まるで宝物を探すようにレゴの山から気になるピースを集めていく。

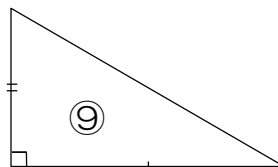
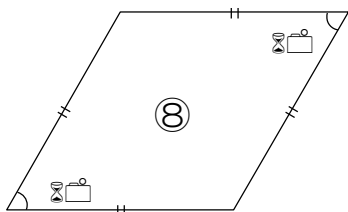
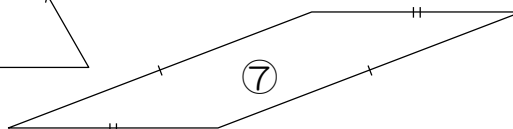
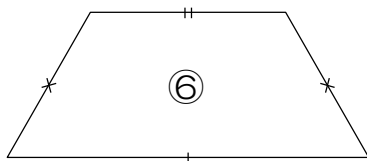
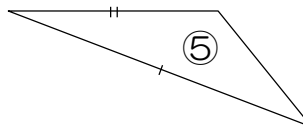
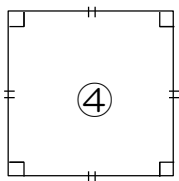
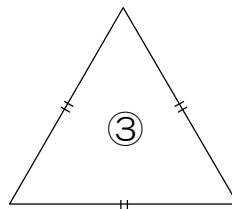
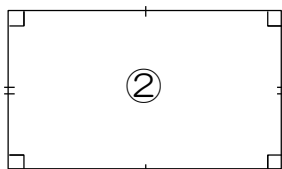
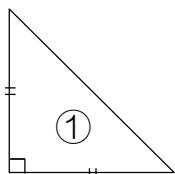
そして、最後に 100 字要約のまとめをする。セミナーを通して学んだこ

と、プロジェクトのまとめなど、彼らは彼らなりの言葉を使ってまとめていく。もちろん、文章のミスや漢字の間違いなどもあるけれど、彼らが一生懸命に考えてまとめた文章は、拙いながらも頑張った気持ちが伝わってくる。

ただし、ここでセミナーが完結するわけではない。この後、彼らのワークを学生のチューターたちが読み、コメントを書き込むのだ。子どもたちが行ったアウトプットに対して、チューターがコメントを通してさらなる気付きの手助けをする。

# 思考力セミナー

下の図のように、いろいろな特徴をもった図形が9個あります。



## 発見体験

### 【作業1】分類してみよう

図形には様々な特徴があります。その特徴を発見して、9個の図形を2つのグループに分類してみてください。

そして、どのように分類したのかの理由をかいてください。

## シェア体験

### 【作業2】意見交換をしよう

今度はグループに分かれて、友達と情報交換しましょう。

自分とは違う友達の分け方を聞いた時には、メモしてください。

## 新たな問いの探究

### 【作業3】分類方法を見てみよう

ある分類方法を用いると、仲間はずれが一つでてきます。それはどれでしょう。

そして、その理由は为什么呢。図で説明してみましよう。そして言葉での説明にも挑戦しましょう。

### 【作業4】方法を比べてみよう

作業3で、図と言葉で説明してもらいました。両方の体験を通して気づいたことはどんなことですか？ 気づいたことを箇条書きでメモしましょう。

## 100字要約

### 【作業5】100字要約

作業4で、メモした言葉や文を使って、100字くらいの文章にしてみましよう。

#### §4 「思考力セミナー」からの贈り物

この思考力セミナーは、2012年度に行われた全6回の学校説明会で実施された。最初は何人集まるのか不安もあったセミナーだったが、ふたを開けてみれば本当に多くの子どもたちが参加してくれた。

さらに、何度も参加をしてくれた子どもたちもいて、中には6回すべてに参加したという皆勤賞の子どもたちもいる。思いがけない副産物としては、子どもたちがこのセミナーに続けて参加していく中で、自然に友達関係を築いていったことだった。

何度も参加していれば顔見知りも出てくる。ちょっと声をかけてみる。グループで意見を出し合った。など、こちらが知らないうちに彼らは知り合いを増やしていつていた。こちらも回を重ねるごとに、子どもたちの顔を覚えていき、名前も少しずつながら覚えていく。

すると、すでに彼らが聖学院の生徒であるかのような気にもなってくる。がんばって聖学院に来てね、と心の中で応援してしまう。子どもたち同士だけでなく、教員ともつながることのできるこのセミナーは、想像していた以上に、期待していた以上に、お互いに与える影響は大きかったと思う。

今後は入学してきた彼らをさらに見守っていくことになる。また、追跡調査も行う予定だ。彼らが思考力セミナーを通して学んだことを生かし、さらに聖学院でどのように成長していくのか、なるべく多くの子どもたちの歩みを見守っていきたいと思う。

2013年度も思考力セミナーと思考力テストは予定されている。さらにより良いものとなるように、こちらも広い視野を持って挑戦し続けていきたい。